



すずか倶楽部 原田 勝二 議員

- 1 集落間、通学路の防犯灯について
- 2 戦没者顕彰施設と平和への祈り

質問1 鈴鹿市通学路集落間防犯灯管理費補助金交付要綱とは。また、防犯灯の設置状況(新神戸中学校も)と今後の取組みは。

答弁1 児童・生徒の安全をまもる為に、通学路集落間(なわて道)に防犯灯が設置されれば、防犯灯電気代補助金を交付する。現在71灯。年間120灯の予定で予算を確保。本年は申請が1灯、神戸中関係は12灯準備完了。今後は学校長・地域・PTAあらゆる視点から、細かく対策を実施していく。

質問2 市内の戦没者顕彰施設の現状はどうか。鈴

鹿市算所の弁天山公園「貝の涙」とは。また、平和への祈りとして、市として取組みの状況は。



答弁2 三重県遺族会によると寺院・神社・墓地に17か所、学校敷地近隣に4か所、集会所・地区市民センター近隣に4か所、公園に1か所、その他に4か所、合計30か所ある。「貝の涙」は算所地区の戦禍が克明に碑文に書かれ平成2年5月2日に平和の礎として寄贈された。平和への祈りは非核平和都市宣言をし、その趣旨に基づき原爆パネル展などを行っている。イベント開催に当たり、弁天山公園の「貝の涙」などを平和の大切さを訴えるものとして市民に伝えるようにしていく。



無所属クラブ 杉本 信之 議員

- 1 自殺対策について
- 2 生ゴミの堆肥化について
- 3 高齢者の住居について

質問1 9月10日から自殺予防週間が始まる。鈴鹿では毎年40人が自ら命を絶っている。今後の取組みはどのようにしていくのか。

答弁1 人と人とのつながりが大切と考えている。窓口職員の研修や市民向けに街頭啓発をしていく。又、市内の市民団体との共催で「生き方」をテーマとした映画上映会を開催するなどして、生きやすい社会となるよう努力していく。

質問2 来年から鈴鹿のごみの焼却灰が九州に運ばれ処理されることとなった。その量を減らす為にも堆肥

センターを建設し、生ごみは堆肥化するのが良いと考えるが、どうか。

答弁2 平成4年より生ごみ処理機等の購入に補助を出しており、平成21年までに全世帯の10%に当たる8千戸に補助した。分別や運搬費用など問題ある堆肥施設の建設より、今後も処理機の補助による各家庭での堆肥化の推奨をしていく。

質問3 広さとバリアフリーの考え方はどうか。

答弁3 豊かな住生活のために誘導居住面積水準が定められており、市営住宅において問題はない。借家等で狭い家に居住している高齢者等に対しては『あんしん賃貸支援事業』を実施し対応している。バリアフリーについては介護保険制度の中で、改修費用上限20万円まで支援している。



すずか倶楽部 中西 大輔 議員

- 1 新しい産業創出について
 - (1) 電動バイクへの取組
 - (2) ※インキュベータ設置について

質問1(1) 鈴鹿市はモータースポーツのまちとして、電動バイクレースに独自のアンテナで取組むべきと考えるがどうか。電動バイクを切り口にした産業創出をどう考えるか。

答弁1(1) 電動バイクによるレースが、鈴鹿で開催されることは話題性に富み、観光資源になり得る可能性もあるが、国内で本格的なレースが開催されていない状況なので今後の動向を注視する。電動バイクは新たな内需を創出する可能性を秘めていると考える。電動機を用いた二輪車の部品の生産、加工、組立を一貫生産

する地域としての、本市の強みは十分認識。その技術の強みを意識し、参加企業同士、関係ネットワーク機関との連携の中で、検討をしていきたい。

質問1(2) ものづくり産業支援センターとSUZUKA産学官交流会などの活動を統合してインキュベータを設置してはどうか。この様な施設に、インキュベーションマネージャーを設置してはどうか。

答弁1(2) 新産業の育成にとって有用な施設であると考えているが「ものづくり動く支援室」を発展させた「ものづくり産業支援センター」をこの10月に開所する。市内一円をインキュベータと考え、支援活動を展開していく。インキュベーションマネージャーは企業の経験豊富なコーディネーターや企業OBアドバイザーをお願いしていく。

※インキュベータ=起業支援のための制度や施設